



ゆらら



今回の内容

1. 「第4回融合フォーラム2000in市川」の予定
2. 「合校構想」と学社融合の接点を探る学習会を予定
3. ミニフォーラムが大成功のうちに終了しました。
4. その他連絡

1. 「第4回融合フォーラム2000in市川」の予定

テーマ 「21世紀の教育を創る(仮題)」

日時 2000年8月18日(金)13:00～19日(土)12:00

場所 千葉県市川市「グランドホテル」

内容(案)

(一日目) 基調講演「文部省大臣官房政策課長 寺脇研氏」(予定)

分科会 A「合校構想(学働遊合)と学社融合の接点」

経済同友会教育委員会副委員長 石川史郎氏

B「心の教育と学社融合」

日本青年会議所直前会頭 松山政司氏

C「小学校英語授業と塾委託」

教育支援協会 若狭昭彦氏

D「市川市ナーチャリングコミュニティ施策と学社融合」

市川市教育委員会 押田敏郎氏

テーマおよび提案者は、いずれも交渉中

会員発表および資料提供(「屋台」のようなワークショップ形式で)

懇親会

(二日目) パネルディスカッション(パネラーは、交渉中)

一日目の分科会での討議内容の紹介を兼ねて、各領域からの実践と学社融合による教育創造の可能性を探る。

文部省生涯学習局より

文部省初等中等教育局より

経済同友会より

市川市より

融合研より

コーディネーターは、寺脇研文部省政策課長が一日目に都合が
つかなかった場合はお願いする。

まとめと講演「筑波大学教授 山本恒夫氏」(予定)

主催 学校と地域の融合教育研究会

共催 市川市まちづくり実行委員会
・市川市青年会議所
・市川市ナーチャリングコミュニティ連絡懇談会
・市川市PTA連絡協議会
・市川市映像協会
・その他関係団体(交渉中)

後援 ・まちワーク研 IPA日本支部 手をつなぐNPOの会 千葉 その他団体
報道関係各社

参加費 A(二日分の参加費+夕食・懇親会費+朝食・宿泊費) 15,000円ぐらい
B(二日分の参加費+夕食・懇親会費) 8,000円ぐらい
C(二日分の参加費のみ) 3,000円

申し込み 融合研事務局へ、FAXまたはメールで。(会費は当日受付でいただきます。)

「第4回融合フォーラム2000in市川」の背景

昨年の仙台での大成功に続いて、今年度は、コミュニティスクールおよびナーチャリングコミュニティ施策として長い歴史を持つ、千葉県市川市を会場に行います。

今回の特徴は、

1. **教育関係者以外の団体や業種**で、融合的な活動をされている方々に参加していただき、それらの方々と学校を中核とした融合教育との接点を明らかにしようとするものです。それは、この一年の融合研には、教育関係者の他に、経済界や建設関係・スポーツ関係・福祉やNPO関係およびまちづくり推進者等、幅広い方々から関心が寄せられてきており、実践方法等で互いの参考になることが多くありそうだと感触を得ているからであります。

一方、そのために融合研の会員発表の時間を確保する事が難しくなりました。そこで、ホテルでの夜の部を、屋台式発表会(仮称)にして**ワークショップ的な会員発表の時間**とすることにしました。この発表時間で質問しきれないことも予想し、**懇親会後も懇親を兼ねたワークショップ**で友好を深めながら盛り上げたいと考えています。

実践を発表したい人は、コーナーを受け持って必要な時間を発表に当てることができます。(世話役は、実行委員会から出ます)

発表しない会員は、いろいろなコーナーを巡って聞き手として参加してください。

また、研究発表はしないが、**資料だけで実践したことを紹介したい**という方は、資料展示コーナーへ資料を置いて会員への情報提供としてください。(100部以上)

2. これまでの一日開催に変えて、**一泊二日で開催**することにしました。

それは、内容が多くなり日程的にきつくなってきたということと、せっかく知り合えた実践者と、友好を深めたり内容を詳しく聞いたりしたいという声が大きくなってきたからです。夜の部はとくにそのような場にしたいと考え、会場もホテルを中心として行うことにしました。多くの方の参加をお待ちしています。

また内容も、これまでは前半にパネルディスカッションをして、後半に分科会という順序でしたが、

参加できなかった分科会の様子も知りたい。

各分科会で話し合ったことの中から、共通する事をパネルディスカッションでまとめあげて理論化していく方向にしたらどうか。

という参加者からの要望があり、そこで検討した結果、順序を入れ替えることにしました。内容の詳細は、今後練り上げていきますが、是非いまから予定をしておいて、参加できる

ようにしてください。

また、会員以外から発表をお願いする人は、それぞれに影響力のある著名人でもありますので、多くの方が参加することが予想されます。会場は、300人まで確保する予定ですが、当日の飛び入りでの受付が難しくなる可能性があります。そのため、詳細が発表になりましたら、「**早目の予約を**」お奨めします。

2. 「合校構想」と学社融合の接点を探る学習会を予定

本会会員で、経済同友会教育委員会副会長の「石川史郎氏(竹中工務店副社長)」が、昨年12月11日のミニフォーラムに参加されました。その後、本年1月7日に、融合研の臨時役員会を行った席上、「『合校構想』や『学働遊合』構想を提案された経済同友会と融合研の学社融合の接点を探ることを目的に、合同勉強会のようなものを持ってないだろうか。」という主旨の意見が出されました。

過日、宮崎会長から、その申し入れを経済同友会にしたところ、「原則的に賛成。しかし、いきなり勉強会を行うのではなく、どのような会にしたら成果が上がるか、事前の打ち合わせをしたい。」旨の回答がありました。そこで、2月16日に宮崎会長と岸副会長とで関係者と懇談をしてみました。まず融合研の活動内容と秋津の実践の様子を知りたいということで、宮崎会長が4月4日に経済同友会で講演をしてくることになりました。その後の具体的なことが決まりましたら、会員の皆様には改めて連絡します。

3. ミニフォーラムが大成功のうちに終了しました。

1999年12月11日に、習志野市秋津小学校・同秋津コミュニティで、恒例のミニフォーラムが大盛況のうちに終了し、多くの成果をあげました。準備が遅れたため、参加者は少ないだろうという予想を裏切って、宮城・福島・新潟や岡山・神戸・名古屋・静岡等からも参加があり、昨年の2倍を上回る70人以上の参加がありました。融合研の全国的な広がりを実感しました。

内容も、具体的実践と理論を結びつけた協議や、京都市PTA連絡協議会とのテレビ会議、および千葉大学教授「延藤安弘さん」の融合的な幻燈会と豊富でした。終了後の懇親会は、秋津小学校PTAと同コミュニティの方々の手作りのごちそうで、大いに盛り上がりました。(この盛り上がり、夏のフォーラムも懇親を深められる場があると良いということを実感する元になったのです。)

会議の様子は、本号に資料としてつけてあります。

協議会の提案者と内容概略

越田幸洋さん(鹿沼市教育委員会)

融合の理論について、学校の選択教科と公民館講座とが一体となった事例を元に「連携と融合の理論的な違い」を提案。

江口勝善さん(鎌ヶ谷市立西部小学校)

校長として、保護者や地域へ学校から発信している様々な事例や、保護者への説明責任を実践することを通して信頼を勝ち取り、それを基盤に地域との融合を推進している事例を「普通の学校でもできる普通の学社融合」として提案。

遠藤 正さん(府中市日新小学校)

授業日のみならず、休日も地域で活動する児童と教師の実践とその課題について子供たちと制作した蚕の繭からとり、染色して編み上げた絹のマフラーや、竹で作った鉢に植えられた春の七草のそれぞれ実物を見せながらの提案。

渡辺勝さん(習志野市秋津小学校)

授業(とくに総合的な学習)での学校と地域施設や地域住民との継続的な関わりについて、特に児童がそれぞれの課題別に福祉センターや地域住民へ働きかけて関わった結果、どのような交流が生まれたかということについて提案。

なお、この分科会の貴重な提案資料の残部が事務局にあります(残り、わずか)。必要な方は、ご連絡ください。

テレビ交流会

NTTの協力により、京都市PTA連絡協議会の研修会と秋津小学校PTAおよび秋津コミュニティが、テレビを使ってリアルタイムでの交流会をしました。京都側は崇仁小学校PTAが主管をしましたが、秋津側の進行役が宮崎会長で、また岸副会長と五十部会員(秋津小学校PTA会長)が会場からコメントを求められていたので、ミニフォーラムの内容に組み入れたものです。一方、この交流会の最後を飾った千葉大学工学部の延藤教授は、なんと、かつてこの崇仁地区のまちづくりを指導したこともあって特別参加をして盛り上げてくださいました。

このような学校で融合を進めながら、それが町づくりの核になっているということが日本中のあちこちから報告されるようになっていきます。そして、互いのよい点を参考にしながら一層の推進を図っていきこうという試みを目のあたりにして、参加者も大いに刺激されたことと思います。

延藤安弘さんの幻燈会

とにかく、大受けでした。
詳細は、資料をごらんください。

盛り上がった懇親会

秋津小学校PTAと、同コミュニティの方々によるお手製の料理で遅くまで懇親が続きました。お餅入りの豚汁うどんや韓国風お好み焼き(ちじゅみ焼き)もあり、参加者は心もお腹もいっぱいになったようです。遠くからの参加者が、名残り惜しそうに帰っていくのや、「こっちへ泊まって明日朝の一番で帰ろう。」という人まで出ていたのがそれを物語っていました。各地での実践者が、このように情報を交換し合ってきた、それぞれの地域での実践の活力にしていくというこの試みはとてもよいものでありエネルギーを感じました。

なお翌日は、岸副会長と宮崎雅子事務局長が、今回の提言者である遠藤正さんの実践する「日新カモミール」の様子を見学(参加)にいき、交流が一層進みました。

4. その他連絡

融合研では、次の人材を募集しております。できる範囲でけっこうですので、お手伝いいただくと会の運営上助かります。

日常的な事務局員(会報の発行に関わる印刷や通信業務、会員以外への資料送付等です。)

フォーラム時の臨時的事務局員(受付、記録、接待等です。)

特典は、研修会の優先的参加ぐらいしかありませんが、やってもよいという方は事務局までご連絡ください。

これまで、フォーラムの名称を夏期は「融合フォーラム」、冬期は「ミニフォーラム」としてきましたが、参加者の増大や参加される地域の広がりを考慮し次のように変更します。

夏期 「融合フォーラム2000in市川」

冬期 「融合研冬季フォーラム2000」

太字斜体は、年度や開催地によって変わります。

その他に、融合を試行するいろいろな団体との合同ミニフォーラムを予定中です。また、各地の会員で、「自分の地域でもやりたい。」という方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。会員の参加を呼びかけます。

研究理論の共有

研究・実践した対象についての評価

研究の位置づけや意味あい

をはっきりさせ、融合研としての理論強化を図りたいと考えています。どのような方法で取り組むかは現在検討中です。会員個人で、研究物をお持ちの方は、資料を事務局までお送りください。このようにして、各自の実践(点)を、会員の共通の理論(線)にしていきたいと考えます。

融合研編「融合冊子」の発行

小学館より「総合教育技術1月号 別冊付録「開かれた学校ヒント集」」として、12月15日に発行されました。執筆は事務局で人選しました。内容には自信がありますので、ぜひ購読ください。

Eメールをお持ちの方には、会報として印刷し冊子にする前の情報をいち早く伝えることができます。まだ事務局までアドレスを連絡してない方は、早めにご連絡ください。また、アドレスの誤りを防ぐため「事務局までEメールで」ご連絡ください。一方すでにご連絡いただきながらメールが届かない方は、事務局への登録番号が不確実な可能性がありますので、もう一度「メールで」ご連絡ください。

事務局アドレス miyazaki@jb3.so-net.ne.jp です

また、メールでの意見交換ができるよう、事務局では「掲示板」の作成・開設の準備を始めつつあります。立ち上がりましたら連絡します。